宮川用水　斎宮調整池

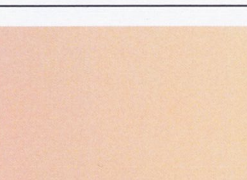
施設の概要

斎宮調整池は、宮川用水第二期土地改良事業（H7～H24）で造成された貯水容量2,000千m³の地区内調整池で、既設ため池の斎宮池と惣田池を統合拡張しました。

なお、この斎宮調整池の特徴は、本堤・第１副堤・第２副堤・第３副堤の４つの堤体で締め切られており、築堤材料は現地発生土のマサ土を使用しています。

また、施工にあたっては、環境影響評価（自主アセスメント）を行い、中の島の保全、斎宮小池の保全、稀少な植物の移植、生物に配慮した側溝の採用等20項目の環境保全措置を行いました。

【工事の様子】



掘削・積込作業
（3m³級バックホウ）

運搬作業
（36tダンプトラック）

本堤盛土作業

【斎宮小池の保全】

斎宮池とつながっていた小池及び北池は、工事区域から除外して保全しました。

【環境配慮型側溝の採用】

道路側溝にカメ、カエル等が落下した場合、脱出できるようにスロープ付きの側溝を設置しました。

惣田池・斎宮池の歴史

【惣田池の歴史】

惣田池は、明和町大字池村の字惣田に築かれた池敷面積2.9ha、集水面積12.9ha、貯水量81,000m³のため池で、この地方では一番古いため池と言われています。

慶長７年（1602）、北畠の元家臣・乾覚助らが移住した斎宮で西堀木郷を造り、多くの開田で用水が必要になったことから築造されました。

【斎宮池の歴史】

明和町大字池村字槇谷に築かれた槇谷池は、通称・斎宮池と言われています。

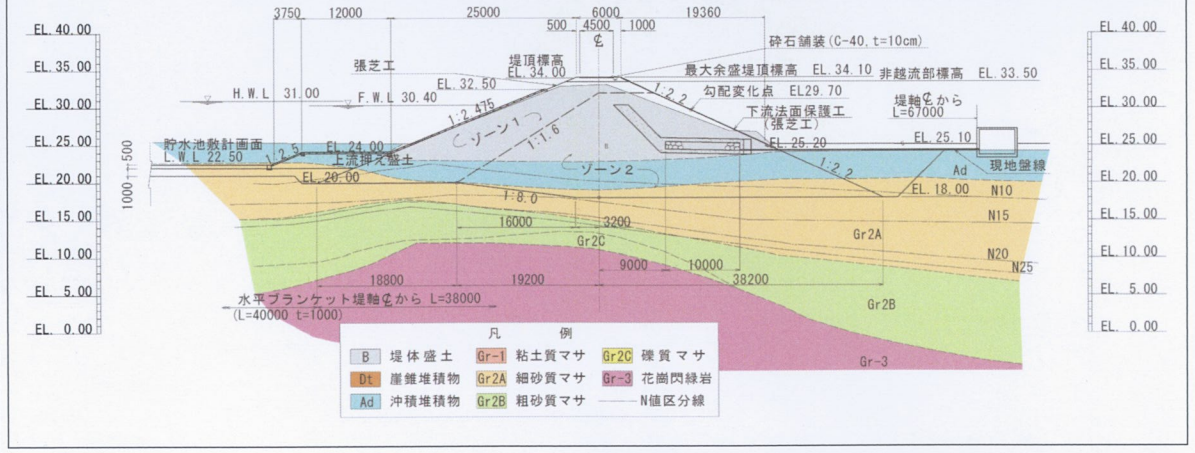
元は神宮領であった斎宮５カ村（現明和町斎宮ほか）は、慶長７年（1602）に紀州藩領となり惣田池を造りましたが、1676年に再び神宮領に戻されました。そのため、惣田池は紀州藩所有となり斎宮５カ村は惣田池の水が利用できず、村民は73年の間辛酸を極めることとなりましたが、ようやく村民の願が紀州藩に届き、宝暦３年（1753）に池敷面積14.5ha、かんがい面積80haの斎宮池が惣田池の隣に築造されました。

施設の配置

施設の諸元

施設名		斎宮調整池			
位置		三重県多気郡明和町及び度会郡玉城町			
堤体	型式	均一型アースダム		流域（km2）	0.65
	堤体	堤高（m）	堤長（m）	堤体積（千m3）	堤頂幅（m）
		本堤 16.0	本堤 181	本堤 76	本堤 6.0
		第１副堤 13.5	第１副堤 117	第１副堤 38	第１副堤 6.0
		第２副堤 14.5	第２副堤 221	第２副堤 78	第２副堤 6.0
		第３副堤 11.5	第３副堤 149	第３副堤 30	第３副堤 6.0
	貯水量（千m3）	2,000			
余水吐	型式		洪水量（m3/s）	規模（m）	
	側水路型（本堤側）		12.0	越流幅	12.75
	正面越流型（第２副堤側）		4.0		4.25
取水施設		取水量（m3/s）	5.132		

本堤の断面図



農林水産省東海農政局
宮川用水土地改良区